

第4段階 ガリラヤの大宣教

E. 十二使徒の任命と山上の教え

9. 山上の教え、第8部：

神への愛には、神のみに対する比類のない忠誠心が必要である

ディリージーザスニュース #075

基本テキスト: MT 6.19-24 (並行テキスト: なし)

19 **わたしはあなたがたに命じます。地上に宝を積んではいけません。そこでは虫がそれを食い荒らし、また盜人が忍び込んで盗み取ります。20 むしろ、自分のために天に宝を積みなさい。そこでは虫がそれを食い荒らすこともなく、盜人が忍び込んで盗み取ることもありません。21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。**

22 **」目は体のともし火です。あなたの目が健全であれば、あなたの全身が明るいでしょう。23 しかし、あなたの目が健全でなければ、あなたの全身が暗いでしょう。あなたの内なる光が暗ければ、その暗さはどんなことでしょう。**

24 **二人の主人に仕える」ことはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりすることです。神と富とに同時に仕えることはできません。」**

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルーカ =^L、ヨハネ =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。** 旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト

| | |
|--------|--|
| 位置 | ガリラヤの山で |
| タイムライン | 西暦31年5月（第16月） |
| イエスの生涯 | 第4段階: ガリラヤの大宣教 |
| | E. 十二使徒の任命と「山の教え」 |
| タイトル | 9. 山の教え、第8部： 神への愛には、神のみに対する比類のない忠誠心が必要である |

第4段階 ガリラヤの大宣教

コメント：

これまでの「山上の教え」で、イエスは弟子の基本的な態度、律法の成就と眞の正義の基盤としての愛の重要な原則、この原則の実践の6つの主な例、そして愛の原則が3つの基本的な靈的訓練の実践にどのように影響するかについて説明しました。今日の朗読では、「イエスは愛の成就」の原則を神と私たちの関係に適用します。明日イエスは、神の愛が父なる神と私たちとの関係をどのように引き起こすかについて見てきます。

イエスは、眞の正義において愛が中心的役割を担っていることを宣言し、無条件の愛が律法の要求を超えて、他人、たとえ敵であっても最善（「正しい」）のことをする方法について、数多くの例を示しました。しかし、「隣人を自分自身のように愛しなさい」は律法の第二の偉大な戒めでした。第一の戒めは、「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」でした。（申命記6章5節）神を愛することは、他人を愛すること以上に、私たちに日々何を求めているのでしょうか。

神を愛することは、神の比類のない価値を理解し、私たちが行うすべてのことにおいて神に従順な忠誠を捧げることです。2人の異なる上司（主）に同時に仕えることは不可能です。なぜなら、彼らの私たちへの命令は矛盾し、私たちは必然的に、どの命令を優先して従い、どの命令は従わなかいかを選択しなければならないからです。イエスは賢明にも、私たちは優先して従うことで一方を「愛し」、無視することで他方を「憎む」ことになるだろうと語っています。神への私たちの愛は、他のいかなる愛にも匹敵するものでなければなりません。三位一体は、私たちにとって疑いようのない最優先事項でなければなりません。

イエスは、「私たちの忠誠心を神を愛するか」お金」を愛するかのどちらかに絞った。ここでイエスが「お金」と言っているのはどういう意味だろうか。その根底にある言葉は、アラム語で「物質的なもの」、つまりお金で買えるものを意味する。お金は、創造物、あるいは人間が作ったものなら何でも買うことができる。つまり、最も単純な言葉で言えば、イエスは、創造主への愛か、創造物以外のものへの愛かという問題を定義していたのだ。

神だけが、何もないところから他のすべてのものを創造できるほど偉大です。神だけが、自分が作ったすべてのものを維持し、支えるほど偉大です。神だけが、三位一体として自分自身だけで無限の豊かさで存在できるほど偉大です。いかなる創造物にも依存せず、必要としません。神は創造物全体よりもはるかに偉大であるため、神だけが比類のない愛、献身、忠誠に値します。神を愛するのと同じ程度に創造物を愛することは、実際には神をまったく愛していないことになります。

「目」の重要性について語った理由です。私たちがよく見れば、私たちは光に満ち、目が見えなければ、私たちは暗闇で満たされます。イエスはここで、私たちが周囲の世界を認識する方法、つまり私たちの「世界観」について語っていました。私たちが、神の本質と性格を、私たちのすべてを飲み込む至高の愛として明確に理解し、神の創造物の中でそれに匹敵するものが何もないことを理解すれば、私たちは光に満ちています。私たちが神よりも他の創造された「もの」を愛するなら、現実の本質に関する私たちの最も基本的な認識はひどくゆがんでおり、私たちは暗闇で満たされるでしょう。

したがって、イエスは私たちに、創造されたものを最も貴重な宝物として扱うのをやめるようにと命じました。「地上に宝を積む」とは、創造されたものを人生で最も重要で貴重なものとみなして、それらで自分を満足させようとする試みです。その代わりに、イエスは私たちに、神ご自身を私たちが持つ最大の宝物と

第4段階 ガリラヤの大宣教

みなし、三位一体との関係を私たちの最高かつ比類のない愛の表現として追求することによって、「天に宝を積む」ように命じました。

イエスがこの教えを始めるにあたって示した弟子の核となる態度は、すべて神への比類のない愛の表現でした。私たちは心において貧しく、嘆き、飢え渴き、神を心から愛しているために素直に従順ですが、同時に罪深く、神を愛せていません。神への愛は、他者に対して慈悲深くなり、神の許しによって清くなり、平和をもたらすことを喜び、神のために迫害を受ける特権を得たときには喜びのあまり踊り叫ぶことさえさせます。これらの態度はすべて、神への比類のない忠誠心と愛を醸し出しています。私たちが今、地上で神へのこのような愛を持って生きるとき、私たちは天国に宝を蓄えるのです。

神に対する比類のない愛こそが、人々に対する私たちの愛の原動力となるべきものであり、私たちはイエスの名において、イエスのために愛します。まず御子において私たちを限りなく愛してくださった神に対する情熱的な愛は、私たちが怒りを正当に扱い、性的に清く、結婚において誠実であり、私たちの約束を重んじ、「したがって私たちが」はい」または「いいえ」で答えるだけで信頼できる人々となるように導きます。神に対する狂気じみたレベルの愛は、私たちが利用されても報復せず、私たちを最も愛してくれる人々を愛するのと同じくらい無条件に敵を愛するように導きます。

神への愛は、私たちが普段の生活の中でできる限り惜しみなく「密かに」与え、定期的に断食し、個人的に祈るように促します。イエスがこれまでこの教えの中で話してきたことはすべて、実は神を愛することについてでした。

弟子たちは、私たちの人生の使命は、私たちのすべて、私たちの考え方、行動、言葉のすべてにおいて神を愛することであることを完全に明確に理解しているべきです。このように神を愛する特権は、文字通り宇宙で最も偉大な栄誉であると私たちは考えています。神への忠誠は私たちの最高の情熱であり、従順は私たちの最大の喜びです。これが、神の創造物に対する、神の比類のない卓越した価値を私たちが「見る」方法です。

イエスがよく知っていた真実は、神への愛だけが真の正義の原動力となるということです。さらに、神への愛は、神が私たちに対して以前から示してくださった無条件の愛への応答としてのみ可能となります。私たちは、神が最初に愛情をもって私たちに与えてくださったものを神に返すことによって、神を愛するのです。これが、次の朗読でイエスが語る真実です。

応用：

イエスがここで私たちに命じたこと、つまり神を愛することによって天に宝を積むことの素晴らしさは、それが神の創造物であるがゆえに、私たちが神の創造物すべてに感謝することになることです。神を真に愛する人々こそが、地上で最も満ち足り、満たされた人々です。

熱烈に神を愛する人たちは、神の創造物に感動し、その創造物を十分に楽しめます。なぜなら、私たちは常に、神の愛、知恵、そして創造物すべてを与えてくださった摂理を認識しているからです。同様に、熱烈に神を愛する人たちは、創造物の墮落の一部でもある痛みや苦しみに感謝することができます。なぜなら、それらはすべて、私たちをイエスに似たものに成長させるからです。神をこの上なく愛することは、神が創造したすべてのものの価値を低下させるのではなく、むしろ高めます。

第4段階 ガリラヤの大宣教

創造主である神を愛するからこそ、創造物について何をもっと愛するのでしょうか。

神に対するあなたの愛に匹敵する創造物は何でしょうか。那人、または物に対するあなたの見方をどのように調整できるでしょうか。

神は本当にあなたにとって最大かつ比類のない愛なのでしょうか？